

食品を科学する

—リスクアナリシス(分析)講座—

食品の安全についてご関心のある方を対象に、食品を科学する —リスクアナリシス(分析) 講座— (全6回) を開催しました。

「知ることの 喜びを安心へ」

食品安全委員会委員
かみやすひら きよこ
上安平 冽子



講座のコーディネーターを務める上安平委員

「そんなことできるかなあ〜」連続講座をお願いしたときの委員の方々は、ニュアンスの違いはあるものの様に困惑の表情をされました。それもそのはず、「それぞれの専門分野から見たリスクアナリシスについて、45分間で中学生でも分かるように解説してください」など、無理難題と言わなくて何と云うのでしょうか。

食品安全委員会は「科学的知見によって食の安全を評価」します。しかし、具体的に「何をどうやっているのか」について、皆さんにわかっていただく努力が足りなかったのではないかと反省が、そもそもの出発点にありました。難解な科学の専門性の壁の前で、はじめから諦めてしまっていたのではないかと。しかし時代は「黙って俺についてこい、間違いはないんだから」では誰からの

信頼もかち取れなくなっています。出した評価が安心感とともに日々の食生活に結びつかなくては、委員会の使命は果たされたとは言えないでしょう。ここは退くわけにはいきません。やってみるしかないのです。

その日から、講師の委員は「易しく伝える難しさ」に四苦八苦することになりました。「専門用語はなるべく使わないで」「話し言葉で言ってください」…「でも科学的に正確に」。職員を参加者に見立ててリハーサルまで行いました。

講座への応募が開始1週間で予定数の2倍に達し、急遽2回にわけて開くことになったとき、皆さんも同じように考えてくださっていたのだとうれしくなりました。参加者は、消費者としての活動や仕事の一環として食の安全にかかわっておられる方が多く(さすがに中学生はいませんでした。平日の昼間の開講ですから当たり前です)、「知りたい・理解したい」という迫力は大きかった。知識も豊富、いただく質問も的確で、主催者としてはずいぶん楽でした。その方々が職場や家庭へお帰りになって、ここで得たものを周囲に広げていただけるのではないかと、そんな期待が胸をよぎります。

勿論、打ち上げ花火1回だけでは線香花火よりさびしいものです。反省点も多々あることですし、来年度も続けます。どうぞお楽しみに!



会場の様子

食品の安全は、リスクアナリシスという手法を基に考えられています。その中で食品安全委員会は、科学的なデータに基づき、食品に含まれる食品添加物や農薬、食中毒原因微生物等が人の健康に及ぼす影響を科学的に評価しています。2013年度は、食品安全について体系的な理解を深めていただくため、「食品を科学する —リスクアナリシス(分析) 講座—」と題して、全6回の連続講座を開催しました。

食品のリスクに関する考え方やホットトピックについて委員が交代で解説し、100名を超える参加者の皆様と意見交換を行いました。アンケートでは、食品のリスクについて改めて学ぶことが多かった。今後も継続してほしいとの意見が多数寄せられました。本講座は、2014年度も開催予定です。

2013年度開催日程		テーマ	講師
第1回	2013年7月24日	「食べ物の基礎知識 〜食品の安全と消費者の信頼をつなぐもの〜」	村田容常委員
第2回	2013年8月28日	「農薬を考えよう 〜野菜や果物をおいしく食べるため〜」	三森国敏委員
第3回	2013年9月25日	「食べたものはどこに行く？」	山添康委員
第4回	2013年10月30日	「甘くみていると危ない？ 〜意外と知らない食中毒〜」	熊谷進委員長
第5回	2013年11月27日	「実は食べている？ 〜自然界のメチル水銀〜」	佐藤洋委員
第6回	2014年1月29日	「食品のリスクマネジメント@キッチン」	石井克枝委員

自治体と共催で行う 意見交換会

2013年度は、全国18か所で地方自治体と共催で行う意見交換会を開催しました。

本年度の意見交換会は「地域のオピニオンリーダーを対象とした意見交換会」、「地域の指導者を対象とした意見交換会」及び「消費者団体との共催で行う意見交換会」の形態で開催しました。

このうち、北海道で開催した「地域のオピニオンリーダーを対象とした意見交換会」では、「遺伝子組換え食品」をテーマとして、育種学の専門家、農業生産者団体、食品加工業界、食品流通業界の方々にお集まりいただきました。食品安全委員会山添委員の話題提供を糸口に、それぞれの立場からの意見を交わし、問題意識を共有することができました。



「食品安全委員会 in 山形県」地域の指導者を対象としたワークショップ

形態	開催日	共催自治体・団体	テーマ
地域の指導者対象	2013年8月2日	大分県	腸管出血性大腸菌による食中毒
	2013年8月27日	佐賀県	食中毒
	2013年10月23日	山形県	食中毒
	2013年11月8日	鳥取県	ノロウイルスによる食中毒
	2013年11月13日	西宮市	食中毒
	2013年12月11日	岩手県	ノロウイルスによる食中毒
	2014年1月23日	北海道	遺伝子組換え食品
	2014年1月28日	愛知県	食品添加物
	2014年2月13日	豊田市	リスク分析
	2014年2月27日	神戸市	食中毒
地域のオピニオンリーダー対象	2014年3月7日	豊橋市	食品添加物
	2013年10月15日	群馬県	トランス脂肪酸
	2013年10月31日	北海道	遺伝子組換え食品
	2014年1月15日	高知市・高知県	トランス脂肪酸
消費者団体との共催	2014年1月23日	滋賀県	食中毒
	2014年1月31日	熊本県・熊本県消費者団体連絡協議会	食品添加物
	2014年2月18日	福井県・福井県消費者グループ連絡協議会	食品添加物
	2014年3月13日	さいたま市・さいたま市食生活改善推進員協議会	食中毒

ジュニア食品安全ゼミナール

ジュニア食品安全ゼミナールは、中学校に食品安全委員会委員が行き、中学生と食品の安全性についてクイズや意見交換をするリスクコミュニケーションのひとつです。2013年度は全国5か所で開催しました。

食品の安全性について興味を持ち、冷静に判断する力を育ててほしいとの狙いで、中学生を対象に、2010年から全国各地で開催しています。地方自治体の協力もいただき、これまでに2300人あまりの中学生と一緒に学んできました。

食品安全関連用語を仲間と共に完成させるクイズでは、グループ対抗のため、クイズの答えが出るたびに会場全体がどっと沸きます。一方で、クイズの回答に関する解説が始まると、しんとした空気になり、真剣に話を聞いてくれます。

クイズに続いて行われる食品安全委員会委員への質問では、例年ユニークな質問が出ます。今年度も「食品に影響を及ぼす菌

は何種類あるのか?」「食品添加物が多いものは太るか?」などが飛び出しました。また、「外国産の食品は食べても安全か?」といった最近メディアで取り上げられている内容の質問もあり、中学生の視点で、食品の安全に関するニュースなどに触れていることが伺えます。

参加してくださった生徒の皆さん、先生方や保護者の方々のご協力に感謝いたします。



クイズの回答をグループで相談しながら作成中（奈良県 桜井西中学校）

共催自治体	開催日	協力校	参加学年・人数
下関市	2013年11月6日	下関市立 豊洋中学校	1～3年生 158名+保護者
豊田市	2013年11月15日	豊田市立 前林中学校	3年生 288名
松山市	2013年11月29日	松山市立 三津浜中学校	3年生 189名
奈良県	2013年12月4日	桜井市立 桜井西中学校	1年生 130名
大分県	2013年12月13日	別府大学付属 明豊中学校	1～3年生 112名